

山口調理製菓専門学校長 須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ 感じ方

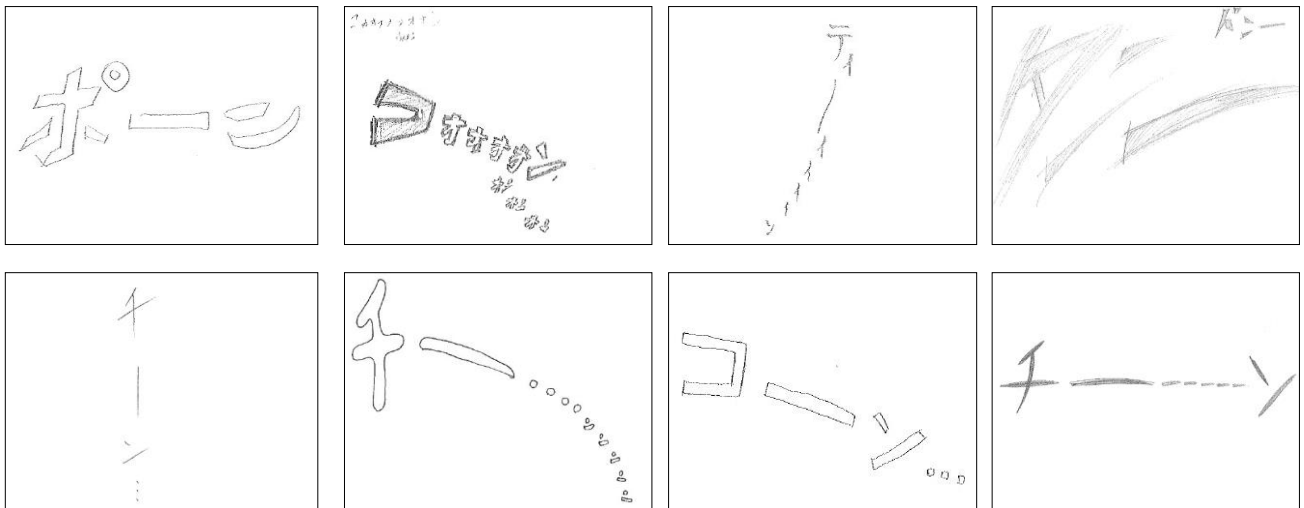
今年のお盆も過ぎていきました。ご先祖様はこの世をどのように感じられて帰って行かれたのでしょうか。お盆では事前にお墓の掃除や仏壇の整備をして櫛やお花などを供えます。灯籠にろうそくの火を灯し、線香をセットします。そしてりんを打って手を合わせます。これが私の家の基本のお盆です。

さて、りんを打つと表現しましたが、オノマトペ※を使いませんでした。皆さんはどのような音を想像されたでしょうか？また、それを表現するとしたらどんな文字を使いますか？

前任校では漫画やイラストを学ぶ科があり、私も少し授業を受け持っていました。漫画ではこのオノマトペは重要な役割をもっています。読者に見てもらってその音を感じてもらわなければなりません。文字の選択やレタリングの工夫は腕の見せ所です。そこであるとき、教室にりんを用意し、打ってみて各人が感じた音をレタリングで表現させてみました。そのときの“作品”を次に紹介します。



りん



実際にはこれの何倍もの個性的な“作品”が表現されました。同じ条件で同じ音を聴いても感じ方や表現の仕方は千差万別です。これを調理・製菓に当てはめてみましょう。料理をしている途中味見というものをします。薄いか濃いかを判断してより美味しいものにするための行程です。このときの感じ方はみんな同じなのでしょうか？違うはずです。自分の家で自分が食べるときには全く問題はありませんが、お客様に提供するとなると客観的なおいしさでなくてはなりません。前回紹介したチーズケーキの試作の繰り返しはこういった点で重要な作業だったわけです。学生諸君、たくさん作って、たくさん味わって、たくさん練習しましょう。

※オノマトペ：自然界の音・声・物事の状態や動きなどを音（おん）で象徴的に表した語。擬音語・擬声語・擬態語など

○ 自校自賛

今回の植物：ナス（茄子）

別名ナスビ。私はこちらの呼び方をよく遣っていました。私は油絵というものを高校生の時に初めて描きましたが、選んだモチーフはジャガイモ、タマネギ、ナスビでした。ジャガイモはおそらくゴッホが描いていたもののイメージが影響したのでしょうか。タマネギとナスビはちょうどそのとき家の棚に転がっていたので採用しました。タマネギは丸い立体感を表すことに苦労しました。ナスビは色を作ることに苦労しました。その頃は10数色くらいの絵の具しか手元になかったため、美味しそうな紫と隙間の爽やかな黄緑と艶の表現に苦戦したことを思い出します。

